● 第2章 ●

● 豊かな心と郷土愛を育むまち ●

1. 学校教育

● 現状と課題 ●

- ●少子高齢化・グローバル化・情報化などが急激に進む社会の中で、主体的に考え、他者と協 働しながら課題を解決する力や、新たな価値を創造する力、社会的・職業的に自立する力が 求められています。
- ●また、確かな学力に加え、知識を活用するためのアクティブ・ラーニング*1、協働型・双方向 型学習、外国語教育や異文化理解教育、ICT(情報通信技術)教育など、新学習指導要領で 求められている教育内容への対応が必要です。
- ●そのためには、教育課程における負担軽減や、安全・安心して学習できる環境の整備など、 誰もがアクセスできる多様な学習機会を確保することが重要です。加えて、地域における多様 な人々との交流を通じて、協調性やコミュニケーション能力を養えるよう、社会全体で人材を 育成する環境を整える必要があります。
- ●本町では、学力向上推進モデル校を指定し、教員の学習指導力向上とともに学力の定着が図 られてきましたが、さらなる学習指導力の向上のため、新学習指導要領に係る研修が求めら れています。また、教職員が心身共に健康で落ち着いた状態で児童・生徒と向き合うため、 教職員の勤務時間の適正化が重要となっています。
- ●施設面に関しては、町内小中学校の建物の耐震化はすべて完了しましたが、非構造部材(内壁・ 照明器具・天井など)の耐震化や老朽化した空調設備の更新などが必要です。また、児童・生 徒数の減少を考慮しつつ、適正な学校配置や学級編成を推進していく必要があります。
- ●防犯対策や防災教育においては、学校・家庭・地域・関連機関が連携をさらに進め、安全な 教育環境を充実させていくことが課題となっています。

小中学校における教育 ICT 機器等 整備状況 (H29.12 末現在)

校内 LAN 整備率	100%
無線化(Wi-Fi) 整備率	0%
タブレット端末導入率	0%

学校施設非構造部材の耐震化状況 (H29.12 末現在)

対象施設数	23 棟
耐震化済数	4 棟
耐震化率	17%



光中学校



横芝中学校

^{※1} 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。

児童・生徒一人ひとりが、自立して社会を生きる力を身につけられるよう、確かな 学力を基礎として主体的に課題を探求・解決する力の醸成を図ります。また、家庭 や地域との交流を通じ、他者と力を合わせて新たな価値を創造する力を育てます。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値 (2021 年度)
教育 ICT 機器の充実 (児童生徒一人当た 0 台		1台
りのタブレット端末保有台数)	ОΠ	' D
学校施設非構造部材耐震化(全学校の	17.0%	100.0%
棟別における改修済棟数の割合)	17.070	100.070
実用英語技能検定取得率	65.7%	90.0%

● 施策 ●

施策1 教育内容の充実

情報化・グローバル社会で、自ら考え課題解決ができる力を養うため、アクティブ・ラーニングや外国語活動、特別な教科道徳、プログラミング学習^{*2} などの教育内容の充実とともに、それらに必要な ICT 環境の整備を図ります。

- 1学習状況を踏まえた学力の向上
- 2児童・生徒の人間関係力の強化
- 3 多様な教育事業の推進
- **⁴**キャリア教育^{※3}の推進
- ⑤日常生活における規範意識の醸成

施策 2 学校運営の充実

多様な児童・生徒のニーズに対応できるよう、教員の学習指導力向上のための研修の充実を図ります。 また、教職員の勤務時間の適正化を進めるととも に、信頼される学校運営体制の構築に努めます。

- ●信頼される学校運営体制の構築
- 教職員研修の充実と学習指導力の 向上
- 3教育活動の推進

施策3 教育環境の整備

家庭・地域と連携しながら防犯対策・防災教育を 実施し、安心で開かれた学校づくりを推進します。 また、老朽化した設備の更新や耐震化をさらに進 めるとともに、将来における学校適正配置の状況 を反映し、教育施設の充実を図ります。

- ●安心できる教育環境の維持
- ②安全で快適な教育施設の整備



^{※2} コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身につけるための学習。

^{※3} 児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育。

2. 青少年育成

● 現状と課題 ●

- ●青少年が基本的な生活習慣を基礎に社会的に自立し、自己肯定感とともに規範意識や思いやりの心を育むには、家庭だけでなく地域の力が必要です。社会全体で青少年育成を進めていくため、より緊密な家庭・学校・地域社会の連携が求められています。
- ●本町では、広報活動による普及促進や補助金の交付などにより、スポーツ少年団の活動支援 を行っています。今後は、県主催の研修会への参加だけでなく、町独自の取組により指導者 の育成を図る必要があります。
- ●また、地域全体で青少年育成を推進するため、関係団体との連携を図りながら、全町的なネットワーク網として青少年について検討する組織の充実が求められており、今後、具体的な取組を進めていく必要があります。
- ●親子関係のあり方、教育の不安などに関し家庭に対して支援を行う上では、個々の状況を踏まえた対応が必要です。そのため、家庭教育学級の実施や、家庭教育指導員による相談窓口の設置などのきめ細やかな支援により、家庭での教育力向上を図っています。今後は子育てを支援する学習プログラムや講座の開発が必要とされています。

青少年育成関係団体主催事業(H 29 年度)

青少	午育成関係団体主催事業 (H 29 年度)
連青	青少年を見守り隊 (夏・冬)
絡少協年	小学6年生のつどい
議相	~サマーキャンプ in もてぎ~
会員	青少年のつどい大会 (ウォークラリー)
貝	レクリエーション事業
	スキー&スノボー教室
	小・中学校卒業記念品の贈呈
連子	県民の日を楽しもう♪
ども会育成とも会育成	初級ジュニアリーダー研修会
勝会	(前期・後期)
会育	夏季ジュニアリーダー研修会
成	(会場:長柄町・鴨川市)
	体験教室 (餅つき体験 ほか)
	スキー&スノボー教室



ジュニアリーダー研修

リーダーシップと協調性を備えた次世代を担う青少年を育成するため、家庭・学校・地域が相互に連携して家庭の教育力向上を図るとともに、青少年が地域で活躍できる機会を増やすため、多様な青少年活動の実施を促進します。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値 (2021 年度)
「ジュニアリーダー」の養成人数	0人	5人
青少年育成関係団体主催事業数	11 事業	14 事業

● 施策 ●

施策1 青少年の健全育成

「横芝光町青少年育成町民会議」を軸に関連団体 との連携を図り、次世代を担う青少年の健全な育 成を推進します。また、ジュニアリーダー研修を促 進し、青少年リーダーの育成に努めます。

- ●青少年健全育成支援組織の充実
- 2スポーツ少年団の普及と指導者の育成
- 3青少年リーダーの育成

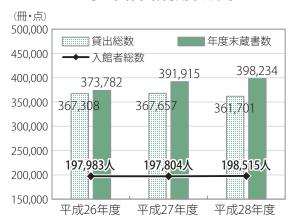


3. 生涯学習

● 現状と課題 ●

- ●近年、生涯学習の需要が高まるにつれて、学習内容・レベルの多様化が進み、年齢やライフステージ*1にとらわれず、誰もが趣味や自己実現のために自由に学習機会を選択し、学習の成果を社会に活かすことができる仕組みづくりが求められています。
- ●本町では、図書館や生涯学習施設を拠点とした、自主的な関係団体による多種多様な学習活動が増えており、コミュニティの活性化や地域課題の解決に資することが期待されています。 一方、関係団体主催の講座と町主催の講座に類似するものもあり、これらの関係性を検討するとともに、生涯学習施設の適切な管理により、環境を整備することが必要となっています。
- ●地域の知識と情報の拠点となる図書館においては、各小中学校や保育所からの資料要望に応えるため、学校図書館との連携を強化しています。
- ●また、図書館資料の充実、施設の適切な維持管理、ホームページやブログ*2でのイベント情報の発信などにより、幅広い年代の利用者に活用されています。
- ●図書館利用者(入館者)数の増加を目指し、住民交流拠点の魅力向上のために、ホームページのさらなる利便性向上などの取組が必要となっています。

町立図書館利用状況等





町立図書館

関連する分野計画

子ども読書活動推進計画(第3次)

2017 (平成 29) 年度~2021 年度

^{※1} 人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期などのそれぞれの段階。

^{※ 2} ホームページを簡単に作ることができるシステム。自分の意見や感想を日記風に記して、それに対する感想などを閲覧者が自由 にコメントできる形式の Web サイト。

多様なニーズに合った生涯学習の機会や場を提供するとともに、住民の生涯学習の成果が自己実現とともに社会にも活かされるよう、地域の交流や課題解決につながる自主的な活動を支援します。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値 (2021 年度)
生涯学習施設利用者数	68,400 人	72,000 人
講座開催数	12 講座	15 講座
図書館利用者 (入館者) 数	198,515 人	202,000 人

● 施策 ●

施策1 生涯学習環境の充実

学習プログラムの充実や指導する人材の確保・育成を進めます。また、各種クラブやサークルなどの団体との連携により、多様な生涯学習の機会の拡充を図ります。

- ①学習プログラムの充実
- 2生涯学習施設の管理
- 3施設の維持改修

施策 2 図書館機能の充実

学校や保育所との連携を強化し、子育で中の保護者と乳幼児に対する支援の充実を図ります。また、情報発信機能の充実と利便性向上を通じ、住民交流拠点の一つとして活用します。

- 1図書館と学校図書館の連携
- 2地域の情報発信と交流拠点機能の 充実
- 3図書館資料の充実
- 4施設の維持改修



4. 文化振興

● 現状と課題 ●

- ●文化は豊かな創造力と感性を育み、他者との共感を通じた相互理解を促すなど、社会の基盤ともいえる役割を持っています。わが国は地域の特色ある文化活動を推進するため、多様な担い手の育成を図っているほか、地域住民の愛郷心を育み、地域活性化の資源ともなる各地の歴史に根差した伝統の保存活用を推進しています。
- ●本町は、国指定史跡の芝山古墳群や国重要無形民俗文化財の鬼来迎のほか、県指定の6文化財、町指定の29文化財を有しています。また、実測により初めて正確な日本地図を作成した伊能忠敬や、日本のソーセージの父と称される大木市蔵など、多くの偉人を輩出してきました。
- ●本町はこれまで、文化財の適正管理・保存に努めるとともに、民俗芸能の伝承活動を担う団体への支援や、町文化祭の開催などを通じて、地域文化の振興を図ってきました。
- ●今後も引き続き、地域住民の文化鑑賞機会の充実が求められるほか、民俗芸能の保存に向けた、継承者の育成支援も必要です。また、民俗芸能や歴史などを地域資源ととらえ、生涯学習の素材として活かし、郷土文化に対する住民の理解を深めていくとともに、交流人口の増加など、地域活性化を見据えた取組も求められます。
- ●歴史・文化資産の発掘に向けた講座・訪問活動については、体制面などについて検討していく必要があります。

指定文化財一覧

区分	指定物件の名祢	
国指定 (2件)	芝山古墳群 (殿塚·姫塚) 鬼来迎	
県指定 (6 件)	海保漁村先生誕生之處 古屋薬王院 木造薬師如来立像 小川台隆台寺 銅造阿弥陀如来 及び両脇侍立像 辻観音院 木造阿弥陀如来坐像 篠本新善光寺 銅造阿弥陀如来 及び両脇侍立像 広済寺の鬼来迎面	
町指定 (29 件)	成田山御本尊不動明王御上陸之地 中台梯子獅子 屋形四社神社里神楽 ほか	





鬼来迎

住民の愛郷心を育む郷土文化を地域資源の核と捉え、伝統に立脚した文化振興に取り組みます。このため、有形無形の文化財の保全に努めるほか、住民が文化に親しむ機会を積極的に設け、郷土の資源に対する関心を醸成します。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値 (2021 年度)
町民ギャラリー来場者数	4,200人	4,800人
文化祭参加団体数	110 団体	120 団体
文化祭来場者数	3,840 人	4,000人

●施策●

施策1 文化資産の保全・活用

文化財の保全・活用に努め、民俗芸能の伝承活動 の活性化を促進します。また、文化財の調査研究 を進めるとともに、地域文化の積極的な発信に取 り組みます。

- ●文化財の適正管理と保存
- 2民俗芸能の伝承活動の活性化
- ③歴史・文化資産の発掘、活用
- ◆ふるさと歴史訪問活動の充実
- 5文化財情報の発信

施策 2 芸術・文化活動の振興

住民が文化に触れたり、日ごろの学習成果を発表する場を積極的に設けます。また、町の文化活動の中心となるリーダーの育成に努め、活動全体の活性化を図ります。

- ●イベント情報の発信
- ②文化鑑賞機会の充実
- 3地域住民の文化活動への参加促進
- 4文化活動団体への支援
- 5文化活動リーダーの育成

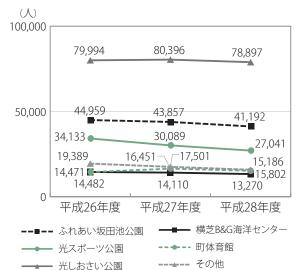


5. スポーツ振興

● 現状と課題 ●

- ●スポーツは、体を動かすという人間の根源的欲求を満たし、達成感や連帯感など、精神的な 充足をもたらします。わが国は、スポーツ参画人口の拡大に向けて、若年期から高齢期までの ライフステージに応じたスポーツ活動を推進しており、国民の体力向上のみならず、共生社会 の実現や経済・地域活性化も見据えた取組を進めています。
- ●スポーツ健康都市を宣言している本町では、住民がスポーツに親しむことを通じて、連帯感を深め、健康で生きがいある生活を送れるよう、各種スポーツ団体を支援したり、全小中学校の施設を地域に開放するなど、地域スポーツの振興を図っています。毎年開催している町民体育祭も、世代間の交流に大きく貢献しています。
- ●スポーツ推進体制については、体育協会と連携し、イベントの運営やスポーツ少年団の活動を 支援しているほか、スポーツの普及に向けた多様な人材の育成にも取り組んでいます。少子高 齢化に伴い、活動力の維持などが懸念されるところですが、地域の連帯感の醸成、健康づく りのためにも、さらに活性化していく必要があります。
- ●今後は、町の魅力である水辺を活かしたウォータースポーツの普及など、交流人口の増加を見据えた取組も求められます。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、スポーツに対する住民の意識を高め、スポーツ参画人口を増加させるための取組を強化する必要があります。
- ■スポーツの基盤となる体育施設については、利用者構成の変化、施設の老朽化対策を見据え、 効率的な維持管理、適正配置を検討する必要があります。

社会体育施設の利用状況





関連する分野計画

公共施設等総合管理計画

2017 (平成 29) 年度~2026 年度

町全体のスポーツ活動を活性化させ、住民の健康づくりや生きがいづくりにつなげます。このため、体育施設の維持管理・地域開放や大会運営支援などを通じ、住民がスポーツに親しめる機会を確保するほか、スポーツにかかわる多様な人材の育成などに努めます。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値 (2021 年度)
社会体育施設利用者数	191,388 人	195,000人
体育祭参加者数	3,200人	3,500人

● 施策 ●

施策1 スポーツ・レクリエーションの振興

住民が生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくりに向け、体育施設を適切に維持管理し、学校施設を地域に開放します。また、各種団体の大会運営を支援するほか、町の魅力である水辺を活かしたウォータースポーツの普及を促進し、スポーツ活動の活性化に努めます。

- 社会体育施設の維持管理
- 2社会体育施設の適正配置
- 3 各種団体の大会運営への支援
- 4学校施設の地域開放
- 5ウォータースポーツの普及促進

施策 2 スポーツを通じた健康づくり

住民一人ひとりが体力、年齢、技術などに応じて スポーツを楽しみ、健康を保持・増進できる体制 づくりに向け、町民体育祭など、交流事業を積極 的に行います。 **①**スポーツを通じた交流事業の実施

施策3 スポーツ推進体制の充実

スポーツ推進体制の充実に向け、各種スポーツ関係 団体などの活動を支援するほか、スポーツにかかわ る多様な人材の育成と活躍の場の確保に努めます。

- ●体育協会活動の支援
- 2スポーツ推進委員活動の推進
- 3スポーツ少年団活動の支援
- 4スポーツ活動協力員活動の推進

